

■平成29年度第1回急性期医療連携検討部会

1 日 時

平成29年7月13日（木）午後1時30分から午後2時30分まで

2 場 所

宇部西リハビリテーション病院5階会議室

3 部会長

宇部記念病院長 小田悦郎

4 出席者

別添のとおり

5 議 題

- (1) 平成29年度検討部会について
- (2) 回復期機能の確保等について
- (3) その他

6 部会における意見等

- 地域における回復期機能の現状及び課題について、各医療機関の立場から報告を行った。
- 急性期機能から回復期機能への転換を計画していることの報告や、在宅のバックアップ体制の充実を望む意見等があった。

《議事1》平成29年度検討部会について

事務局から、今年度の検討部会の進め方及び第1回部会での協議事項について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

《議事2》回復期機能の確保等について

事務局から、平成28年度病床機能報告結果を踏まえ、不足とされている回復期機能の確保等に向けた地域の課題について説明。これに基づき、各医療機関・医師会における現状・方向性など情報交換等を行った。

(主な意見・質問等)

- 看護体制の不足等から急性期の維持が難しくなっており、急性期1病棟を地域包括ケア病棟へ転換することを検討中。
- 急性期の半数程度を回復期へ転換する方向で、病院改築計画を進めている。
- 現行の地域包括ケア病床を段階的に増やしたい。
- 現行の地域包括ケア病床を増やすか、回復期病棟を新設するか、スタッフの確保や周囲の状況等を踏まえ検討したい。
- 圏域で、回復期が不足しているとの実感はない。急性期・慢性期が多過ぎであることを含め、あくまで国の推計値との現状受け止めがある。
- 数字ありきではなく、現状に合うように少しずつ変えていってほしい。
- 他県では、必要病床数にある程度の幅を持たせ、目標を緩やかに設定している事例もある。
- 夜間・休日の救急対応など、必要とする急性期医療の確保が重要である。
- 地域包括ケアを進めるため、在宅のバックアップ体制を充実してほしい。
- 病床機能報告が病棟単位のため、地域包括ケア病床など急性期に含めているが、病床単位での報告が可能となれば回復期とするなど、実状をより反映しやすくなる。
 - 病床単位での報告に関して、国は検討状況にない。
- 必要病床数は、病床稼働率まで考慮されているのか。
 - 病床機能ごとに病床稼働率を含め算定している。
- 構想推進に係る国の考えによれば、今後2年間程度で個別の病院名や転換する病床数を決めるのか。
 - あくまでも地域の現状を踏まえてと考えている。

《議事3》その他

事務局から、県医師会が実施した慢性期病床の転換に係るアンケート調査結果について、本日は資料配付のみとし次回以降の検討部会で説明を行うこと、また参考資料として、介護医療院に関する情報を添付している旨説明。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等はなし

■平成29年度第1回回復期・慢性期医療連携検討部会

1 日 時

平成29年7月13日（木）午後2時45分から午後4時まで

2 場 所

宇部西リハビリテーション病院5階会議室

3 部会長

セントヒル病院長 西嶋雋嘉

4 出席者

別添のとおり

5 議 題

- (1) 平成29年度検討部会について
- (2) 回復期機能の確保等について
- (3) その他

6 部会における意見等

- 地域における回復期機能の現状及び課題について、各医療機関の立場から報告を行った。
- 機能転換については、「利用者やスタッフの確保が課題」、「診療報酬改定を踏まえて判断したい」との意見が多かった。

《議事1》平成29年度検討部会について

事務局から、今年度の検討会部会の進め方及び第1回部会での協議事項について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

《議事2》回復期機能の確保等について

事務局から、平成28年度病床機能報告結果を踏まえ、不足とされている回復期機能の確保等に向けた地域の課題について説明。これに基づき、各医療機関における現状・方向性など情報交換等を行った。

（主な意見・質問等）

○昨年、医療療養病床の一部を回復期リハ病棟へ転換。当面は現状維持。

- 回復期リハ病棟を増やしたいが、利用状況が安定せず当面は現状維持。今後は整形に特化した病床として回復期を維持したい。
- 現行の回復期リハ病棟を、脳卒中等に特化するか、地域包括ケア病棟へ向けるか検討中。新たに地域包括支援の病棟も設ける方針。近隣の急性期病院・施設等とタッグを組み、どのような方向性で回復期を担えるのか考えたい。
- 回復期リハ病棟への転換には、リハビリスタッフの確保等が大変と聞いており、二の足を踏む状況。
- 看護体制の不足等から急性期の維持が難しくなっている。急性期1病棟を地域包括ケア病棟へ転換することを検討中。
- 現行の地域包括ケア病床を段階的に増やしたい。
- 現行の地域包括ケア病棟を維持しながら、地域のクリニック等と連携し、在宅支援のサブアキュートの役割を強化したい。
- 現行の地域包括ケア病床を維持しながら、男女の利用実態に即した効率的運用ができるよう改善したい。
- 療養病床から地域包括ケア病床への移行は、専従のリハビリ職員の確保等を考えるとなかなか難しい。
- 国の動向等を踏まえつつ、医療療養病床25：1を20：1へ移行させたい。
- 長期療養が必要な慢性期透析の患者等を抱えており、医療療養病床を現状のまま維持したい。
- 介護療養病床から、介護医療院や医療療養病床への移行を想定しており、今後の報酬改定等の動向を見極めたい。
- 回復期リハ病棟の利用率は低調。実際には回復期病床は少なくないと思われるが、回復期を増やす方向性か。
 - 地域医療構想では、平成37年の必要病床数を目標としているが、あくまで、地域の実態を踏まえ取り組む基本スタンスに変わりはない。

《議事3》その他

事務局から、県医師会が実施した慢性期病床の転換に係るアンケート調査結果について、本日は資料配付のみとし次回以降の検討部会で説明を行うこと、また参考資料として、介護医療院に関する情報を添付している旨説明。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等はなし

■平成29年度第2回急性期医療連携検討部会

1 日 時

平成29年10月19日（木）午後1時30分から午後2時30分まで

2 場 所

宇部西リハビリテーション病院5階会議室

3 部会長

宇部記念病院長 小田悦郎

4 出席者

別添のとおり

5 議 題

- (1) 公的医療機関等2025プランについて
- (2) 医療機能分化連携推進事業（基金事業）について
- (3) その他

6 部会における意見等

- 地域医療構想の達成に向け、各公的医療機関等が作成した、今後地域において自ら担うべき役割等を整理した2025プランについて、報告を行った。
- 今年度の医療機能分化連携推進事業に関する、設備・施設整備の申請案件について、各病院から事業の内容や目的等について説明した上で、部会として、地域の目指す方向性に合致しており、圏域の回復期機能を充実させるため必要との意見で合意した。

《議事1》公的医療機関等2025プランについて

事務局から公的医療機関等2025プランの概要について説明し、策定対象医療機関から、策定したプランの概要について説明。

（主な意見・質問等）

- 地域医療構想における必要病床数の推計によると、圏域の高度急性期は、現状の742床から2025年には328床へと大きく乖離している。大学病院に関しては、特定機能病院として全県で高度医療を提供している特性等から、地域医療構想の必要病床数から外して考えるべきではないか。

→病床機能報告における高度急性期の定義に関してや、地域医療構想の中で大学病院の役割をどう位置づけるのか、現在、国において総合的に検討されているところ。

《議事2》医療機能分化連携推進事業（基金事業）について

事務局から医療機能分化連携推進事業について説明し、本圏域で実施を希望している2病院から事業の内容等について説明。

（主な意見・質問等）

本申請案件について、本圏域において回復期機能を充実させる方向性との整合等を協議・検討した結果、部会として、いずれの事業も在宅復帰に向けた機能強化のため必要との意見で合意した。

《議事3》その他

事務局から、地域医療構想に関連する指標として、今後の県全体の老年人口の推移等について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

■平成29年度第2回回復期・慢性期医療連携検討部会及び平成29年度第1回地域包括ケア連携検討部会（合同部会）

1 日 時

平成29年11月6日（月）午後2時から午後3時まで

2 場 所

宇部西リハビリテーション病院5階会議室

3 部会長

宇部西リハビリテーション病院長 梶原浩司

4 出席者

別添のとおり

5 議 題

- (1) 公的医療機関等2025プランについて
- (2) 医療機能分化連携推進事業（基金事業）について
- (3) 療養病床及び地域包括ケア病床に関する調査報告について
- (4) 療養病床転換意向等調査の結果について
- (5) その他

6 部会における意見等

- 地域医療構想の達成に向け、各公的医療機関等が作成した、今後地域において自ら担うべき役割等を整理した2025プランについて、報告を行った。
- 今年度の医療機能分化連携推進事業に関する、設備・施設整備の申請案件について、各病院から事業の内容や目的等について説明した上で、部会として、地域の目指す方向性と整合しており、圏域の回復期機能を充実させるため必要との意見で合意した。
- この他、県医師会による療養病床の現状把握に関する調査及び県が実施した療養病床転換意向等調査について、報告を行った。

《議事1》公的医療機関等2025プランについて

事務局から公的医療機関等2025プランの概要について説明し、策定対象医療機関から、策定したプランの概要について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

《議事2》医療機能分化連携推進事業（基金事業）について

事務局から医療機能分化連携推進事業について説明し、本圏域で実施を希望している2病院から事業の内容等について説明。

（主な意見・質問等）

本申請案件について、本圏域において回復期機能を充実させる方向性との整合等を協議・検討した結果、部会として、いずれの事業も在宅復帰に向けた機能強化のため必要との意見で合意した。

《議事3》療養病床及び地域包括ケア病床に関する調査報告について

県医師会から、療養病床における入院患者の医学的ケアの現状や、在宅及び介護施設等での受け入れの可能性を把握するために実施した調査の結果について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

《議事4》療養病床転換意向等調査の結果について

事務局から、県内の療養病床を有する病院を対象に、療養病床からの転換先等の意向を把握し、次期介護保険事業計画の基礎資料とするために本年8月実施した調査の結果について説明。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

《議事5》その他

特に意見・質問等はなし